

分野	荒廃山地の復旧等の治山			事業番号	4	事業名	山地治山(予防治山)		
市町村名	上田市	ふりがな箇所名	ふるや古屋	事業年度	(完了年度は見込み)		年度～	年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	谷止工1個、山腹工0.05ha(土留工1個、伏工500㎡)				H23年度末 事業進捗率	-		
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	-		
	H24年度実施内容	-				用地補償費ベース	-		
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残			
	事業費計(千円)	30,000				30,000			
財源内訳	国庫支出金	15,000				15,000			
	その他								
	県債	13,500				13,500			
	一般財源	1,500				1,500			
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点	
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上	1～9戸	0戸	B	5		
		保全対象公共施設	2箇所以上	1箇所	なし		5		
		保全対象に災害時要援護者関連施設があるか	重要施設	一般施設	なし		2		
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上	保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり	保安林率30%未満		12		
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上	災害履歴地	なし	A	5		
		交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小		3		
		防災計画上の位置づけ	あり	なし			5		
		小計					13		
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上	B/C1.0以上2.0未満	B/C1.0未満	A	10		
		早期発現度	3年未満	3年以上5年未満	5年以上		7		
		流域の総合調整	あり	なし			3		
		小計					20		
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満	50m以上200m未満	200m以上	B	7		
		地形、地質の状況	火山噴出物、花岡岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形	火山噴出物、花岡岩、第3紀層、破砕帯	その他		2		
		平均渓床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)	5°～10°未満(20～30°未満)	5°未満(20°未満)		3		
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし	あり(概ね満砂)	あり(ポケットあり)		3		
		危険地区危険度	Aランク	Bランク	Cランク		なし	15	
	計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い	市町村要望有り	特に要望ない	B	10		
		事業情報の共有	関係者以外にも周知	関係者中心に周知	特に周知していない		3		
		住民参加の状況	住民が直接参加	住民市町村意見を反映	住民意見反映していない		13		
		小計							
	費用対効果(B/C)	19.72	評価の合計				B	73	
	事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	通常は流量の少ない溪流であるが、平成22年7月梅雨前線豪雨災害により山腹が崩壊し、渓床に堆積した。下流の既設谷止工は満砂しており、今後の降雨時に土砂が下流へ流出する恐れが高い。						
		地域からの要望経緯	平成22年7月梅雨前線豪雨災害の被災状況について下室賀自治会の調査により山腹崩壊を発見し、上田市役所及び上小地方事務所へ通報・事業実施を要望した。						
事業説明等の経緯		事業採択後、事業説明							
環境・景観への配慮項目		伐採木は筋工等に利用して適切に処理する。							
他事業・プロジェクトとの関連		砂防事業と調整し、減災対策等安全な地域づくりのために連携する。							
特記事項		特になし。							
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他				
部意見	溪流左岸は浸食はあるものの、ほぼ基岩に達している。溪流右岸側の堆積地形の浸食・再移動による想定流出土砂量、被害想定範囲の検討・解析を進め、必要な対策工を見極めた上での事業化が必要である。			政策評価課意見	重要性は認められる。				